



休刊 大祭 第三日曜  
定價(一枚二錢、壹ヶ月)  
五十錢、郵稅十錢  
廣告料(雜報欄行五十錢增)

發行所 福島縣平町西町拾六  
新潟縣磐越西郡龍輔

列せられた陸奥宗光公は元

氏を救済せんとしたる、此

るが芝居では家内の着總て

余にはお照の怨み歎く(登

てのものであつた)

御意にござりまする

怨みから心ばかりが猛

たつのであつた

御意にござりまする

さあ、それが——

重太夫は頭を上げない

天にありては比翼の鳥、地

に在つには連理の枝、二世

重太夫は巧みに油をかけ

利刀を以て、亂麻を斬つが

九にしめて始めて八學院専門

入り卒業の後東京帝國大

臣と呼ばれ、伊藤博文公の

は御承知の如く朝治外交

文部省併合を好み、内藤鳴

雲等と研究する所もあり西洋

の文學の論理明晰なる外俳

諧を應用して、印象明瞭な

性文字俳諧を好み、内藤鳴

雲等と研究する所もあり西洋

の文學の論理明晰なる外俳

諧を應用して、印象明瞭な

